

業務部速報

No. 81

発行 16. 3. 23

JR東労組業務部

申26号

2016年3月ダイヤ改正等に関する申し入れ 団体交渉

第1項 2015年度のダイヤ改正における課題を明らかにするとともに、2016年3月ダイヤ改正において課題克服に向けて、検証結果がどのように反映されているのかを明らかにすること。

会社 上野東京ライン、北陸新幹線ともに好調であり、一部列車や一部時間帯で混雑が見られる。今回のダイヤ改正で混雑緩和をはかる。

第2項 ダイヤ改正実施にあたっては、関係する社員、利用者に十分な説明をおこなうこと。また、行路作成、保守間合の確保、設備改修等万全な準備と体制を確立した上で実施すること。

会社 列車運行を確保するために、メンテナンスは重要な位置づけであり、その前提で関係部門と調整している。
・作業者の安全を確保するためにも、必要な間合いを確保することは変わらない。運車だけでなく一体となり行う。
確認!

組合 目的等が理解されないまま運転士の氏名放送を行うべきではない!

会社 実施日ありきではないが、理解してもらった上で実施する。
確認!

第3項 「北海道新幹線」新函館北斗開業に伴い JR 北海道は青函トンネル内の列車火災等を想定し異常時訓練等を行っているが JR 東日本として JR 北海道と連携し万全な体制を構築し安全性を高めること。

会社 新幹線運行本部と JR 北海道の新幹線運行管理センターとの間で連携を議論してきた。
・2/8、25の夜間に合同の異常時訓練を実施し、JR 東日本からも100名規模で参加している。
確認!

第4項 上越・北陸新幹線の東京～高崎間の混雑率を平準化すること。

会社 15、16時台の「とき」1本/h→2本/h(臨時の定期化)
14時台の「とき」8両編成→16両編成 **要求実現!!**
・ダイヤ改正は利用状況、お客さまの声、社員の声、それまでの列車設定を総合的に勘案して決定している。

第5項 首都圏、地方都市圏におけるダウンサイジング(ご利用状況に合わせた輸送力の適正化)の内容を具体的に明らかにすること。

会社 ダウンサイジングとは、利用状況が芳しくない列車の体系を見直し、状況が良いところを増やすことの総称。
・自治体等の地元との調整をし、社員へ周知し、理解を得た上で進める。
確認!

第6項 上野・東京ラインでダイヤ乱れが頻繁に発生する原因を明らかにし、混雑緩和と早期ダイヤ平復に向けた対策を講じること。また、グリーン車トイレの使用不能が多く発生していることから車両整備する間合いの確保と関係する車両センター内に設備を新設すること。

組合 上野東京ラインはダイヤ乱れが多く、平復しなく迷惑を掛けている。改善方法を早急にしめすべき!
・運用がもどらずトイレの欠水が頻発している!

会社 上野東京ラインの問題は捉えている。現場の苦労も認識している。それを解決するのが品質向上である。
・設備投資を含めてやれることを順次やっていき、品質向上を着実に進める。
確認!

第7項 「普通列車のグリーン車のアテンダント乗務区間の見直しについて」は NRE の雇用問題、車内秩序の保持、車両業務のあり方、不正乗車等の観点から「普通列車グリーン車の新たな業務体制に関する議事録確認」と議論経過を遵守し、施策の目的を確実に実行するために普通列車グリーン車の車内改札業務は JR 本体で行うこと。

組合 不正乗車、車内喫煙など車内秩序が低下している。
・グリーンアテンダントが乗れないなら本体に戻すべきだ!

対立

会社 試行の結果、乗務区間見直しのデメリットはない。
・「乗務区間の見直し」を見直す計画はない。

乗務区間の省略により委託当時に懸念した問題が再燃する!
検証し認識を合わせる議論をすべきだ!!

第8項 上野・東京ラインにおける東京駅、新橋駅ホーム上の安全を確保すること。

会社 混雑時の安全確保の観点から、東京駅のグリーン券売機の移設(北行→南行ホーム)や、新橋駅銀座口側の階段手すりの変更、入出金機の導入により助役が機動的に動けるようにする等を行った。ガードマンの配置箇所の変更も行った。

・利用実態に合わせて柔軟に体制をとっていく。**確認!**

第9項 訪日外国人旅行者の増加により成田空港、空港第2ビル駅の出札窓口にて行列が多発しているため、出札業務の体制を強化し行列を

会社 波動的だが行列が見受けられる事は認識している。
訪日旅客が多い事や、手続きが複雑なジャパンレールパス等が原因と認識している。
・当社の土地ではなく、窓口増設は現状では困難だが、関係会社との協議を含めて、MV や到着ロビーの発券窓口を含めた総体で対応を検討していく。
確認!

第10項 安全輸送を確保するために執務スペース、休憩室、休養室などを使用目的、作業実態に合わせ整備すること。

会社 安全輸送を確保するために休む場、一旦リセットしてもらおうという主旨で使用できる環境を整備した。
・可能な限り休憩スペースを確保し、よりよいスペースを確保する。

これから考えは変わらない!

・居心地の良いスペースとして、社員の声を聞いて検討し、不都合なものは変えていく。
確認!

第11項 ダイヤ改正実施後は労使で検証し、問題等が発生した場合は労使が真摯に議論を行い、問題解決を図ること。

会社 検証を実施する。
・各システムで課題は残っている。
・課題をクリアするためには現場の声が大事であり、声を吸い上げて行く。
確認!

安全で品質の高い輸送を実現するために、職場からの検証運動を強化しよう!